

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 10 月 19 日現在

機関番号：24402
研究種目：基盤研究(C) (一般)
研究期間：2013～2015
課題番号：25380687
研究課題名(和文)都市セグリゲーションと貧困観の国際比較研究

研究課題名(英文)urban segregation and perception of poverty

研究代表者
川野 英二(kawano, eiji)

大阪市立大学・大学院文学研究科・准教授

研究者番号：20335334

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：大阪のセグリゲーション指標、ジェントリフィケーション指標の分析を行なった。また富裕地区を対象にインタビュー調査を行ない、各地区の特徴を分析した。他には、ジェントリフィケーション地区を選び、質問紙調査を実施した結果、変化の特徴や住民の社会意識が地区によって異なることが明らかになった。パリ、サンパウロ、大阪でとくに庶民地区のデータを取り上げ、共通の分析指標の構築を行なった。現在はデータ分析を行なっている最中である。福祉レジームによる都市政策の相違という点では、調査地域を限定したため不十分だが、社会的紐帯を基礎としたレジーム比較という新しい分析枠組を洗練させたことは、重要な成果である。

研究成果の概要(英文)：Analyses were conducted of an segregation index and an gentrification index in Osaka. Also, interview surveys were conducted in affluent districts, and the characteristics of each district were analyzed. In addition, using the results of questionnaire surveys conducted in selected districts where gentrification is occurring, we clarified the characteristics of ongoing changes and how residents' social consciousness differed from district to district. Data, particularly on average citizens, in Paris, Sao Paulo and Osaka were used to develop common analytical indices, and we are now proceeding with an analysis. In terms of identifying how urban polices vary according to welfare regimes, a limited or insufficient number of the urban districts have been studied. However, an important result of this work has been the development of a more refined analytical framework based on comparisons of regimes that reflect social ties.

研究分野：社会学

キーワード：セグリゲーション 貧困観 国際比較 社会的紐帯

1. 研究開始当初の背景

(1)国内の研究背景と動機

①近年、日本でも貧困や社会的排除の研究が盛んになっており、数多くの実態調査も実施されている。とくに大阪では、貧困・社会的不利地域を対象とした調査が長年行われてきた伝統がある。しかしこれまでの研究は、社会地図による不利地区の可視化(水内 2008)やあらかじめ特定地域を対象としたモノグラフにとどまり、ミクロな視点とマクロな視点を同時に考慮に入れたデータ収集と適切な分析が行われてきたとは言い難い。他方、都市セグリゲーション指標の分析としては、人口学の分野で、非類似性指数を用いて外国人の居住セグリゲーションの分析を全国レベルで行った研究が最近になって現れてきた程度である(是川 2009)。大阪を対象とした場合、階層別のセグリゲーション指標の分析やその時系列的な変動の分析はいまだに着手されていない。

②以上のように、これまで階層格差の空間的表現である都市セグリゲーションに関しては大都市の富裕層と貧困層を対象とした調査研究が十分に行われてきたとはいえない。本研究では、都市セグリゲーションのメカニズムを解明するためには、貧困層だけではなく富裕層の居住選択と社会意識も対象にする必要があると考える。申請者は2011年に大阪市民約3000名を対象とした社会生活と健康調査を行い、階層の高い地区においては友人ネットワークが地域内に閉じられているほど、貧困対策に否定的な態度をもっていることを明らかにした(川野 2012)。こうした相対的に豊かな地区における「近隣効果」のメカニズムを明らかにするためには、本研究のように貧困地区と富裕地区を対象とした詳細な調査が必要である。

(2)国外の研究背景と動機

①国外では、近年都市セグリゲーションの国際比較が盛んであるものの(Maloutas 2012)、国内では国際比較の観点から都市セグリゲーションを分析した研究はみられない。したがって本研究では、海外で行われた先行研究の方法に準拠して、2005年と2010年の国勢調査小地域統計をもちいて大阪市のセグリゲーション指標を計算し、その時系列的な変化を分析することによって、都市セグリゲーションの国際比較を試みる。また、現在ヨーロッパでは、富裕層の居住選択と社会意識が都市セグリゲーションの大きな要因であることが指摘されており、「富裕層と貧困層」に関する国際比較プロジェクトが行われている。本研究はこのプロジェクトチームと連携し、同様の調査方法をもちいて、大阪をフィールドとした富裕層の居住選択と社会意識に関する調査を実施する。

②貧困観については、ヨーロッパでは1970年代から貧困観の国際比較調査が行われてきたが、これまでの先行研究では、貧困観のあり

方が各国の貧困対策に与える影響を実証的に分析したことはなかった。(川野 2012)では、先行研究と同じ質問項目をもちいて大阪市民の貧困観、とくに貧困原因の知覚と貧困対策の支持傾向の分析を行ない、貧困の自己責任論が貧困対策に否定的な影響を与えることを明らかにしたが、さらに国際比較データをもちいて、大阪の研究を国際的なレベルで比較することができる。

2. 研究の目的

本研究の目的は、世界各地の都市・社会政策が大都市の富裕層と貧困層の居住セグリゲーションに与える影響と、貧困対策を支える都市住民の貧困観を明らかにすることである。具体的には、第一に1)福祉レジームの違いによって貧困に関する認識、つまり貧困観がどのように異なるのか、2)各国の貧困観の規定要因、3)貧困観が貧困対策にあたる影響について国際比較データをもちいて分析する。第二に、4)大都市の居住セグリゲーションによって富裕層と貧困層がどのように分断され、5)貧困層が社会的にどのように処遇されているのかをフィールド調査によって明らかにすることである。

都市セグリゲーションは貧困の集中だけではなく、富裕の集中という側面ももっており、両者を同時にとらえる必要がある。そのため本研究では、セグリゲーション指標については地区の職業構成と失業に注目し、貧困と富裕の両方のセグリゲーションの状況とその変化を分析する。セグリゲーションの分析は、当初の調査地域はヨーロッパとアジア、アメリカの大都市とする予定であったが、予算や研究時間、データへのアクセスの問題から、最終的には主に日本とフランスの都市を中心とせざるをえなかった。

3. 研究の方法

(1)国際比較調査と大阪市調査データの分析

①2011年の大阪市社会健康調査データをもちいて、貧困・不安定層の規定要因および社会的ネットワークの分析を行なった。大阪市調査では国勢調査小地域データをもちいて地区類型と社会地図を作成したうえで個人をサンプリングしているため、居住地区レベルでの違いを考慮に入れたマルチレベル分析を行うことができた。

②国際比較に関しては、比較調査で使用したサンパウロのデータは庶民地区に限定されていたため、パリと大阪の調査データも同じタイプの地区でデータを抽出し、社会的紐帯の四つの指標(親族の紐帯、選択的参加の紐帯、有機的参加の紐帯、シチズンシップの紐帯)それぞれの指標を構築し、比較分析を進めている。

(2)対象地域に関わる都市セグリゲーションと貧困対策の資料収集と分析

①2010年国勢調査小地域統計データをもち

いて、大阪市の都市セグリゲーションの分析を行なった。2005年データの分析に加えて新たに2010年のデータを分析することによって、大阪市の都市セグリゲーションが五年の間にどのように変化したのかを明らかにし、2010年版の大阪市社会地図を作成した。また主に職業に関する変数を使用して、セグリゲーション指標（非類似性指数、セグリゲーション指数、孤立指数、相互作用指数）を計算し、2005年から2010年のあいだにどのような変化が生じたのかを分析した。

②さらに大阪では、これまでのセグリゲーション研究を発展させて、同じく大阪市内の国勢調査データをもちいてジェントリフィケーション指標を構築し、大阪市内で進むジェントリフィケーションの状況と該当地域の特定と分析を行なった。それを踏まえて、2014年には、ジェントリフィケーション地区3地区の住民を対象に貧困観や社会生活の意識に関する質問紙調査を行なった。

③該当する都市のセグリゲーション研究と貧困対策の資料収集と分析を行ない、大阪市のセグリゲーションを国際比較の観点から位置づけた。大都市のセグリゲーションの比較研究はすでにヨーロッパと南米を対象に実施されているため（Maloutas et al,2012）、海外の担当研究者とコンタクトを取り、大阪市のデータ分析と他都市の分析を比較検討した。とくにフランスについては所得、職業階層などのデータが国勢調査地区単位でえられたため、フランス国内の大都市比較が可能になった。そのため、パリとリヨンのセグリゲーション指標とそれにもとづく地区タイプの構築を行ない、それをもとに対象地区でフィールド調査を行なった。

イギリスでは、統計データを得ることができなかったが、先行研究をもとに貧困地域とジェントリフィケーション地域を選び、フィールドワークによる観察とデータ収集を行なった。

(3) 富裕層のインタビュー調査・分析

この調査では、フランスの「富裕層と貧困層」プロジェクトの代表者とコンタクトを取りつつ、サンプリング方法の検討およびインタビューガイドを作成し、平成25年度から26年度にかけて約20名の富裕地区住民を対象にインタビュー調査を実施した。

調査は、まずⅡの地区タイプの作成から階層の高い地区を抽出し、そこから「風致地区」として指定された地区を選んだ。富裕地区は社会地図にもとづいて特徴的な三地点、1) 市中心部に近い古くからの高級住宅地、2) 郊外の高級住宅地、3) 市中心部の高層住宅を選んだ。これらはいずれも「風致地区」として指定された地区である。これら該当する地区住民を対象としたフィールドワーク及び、インタビュー調査を実施し、報告書を作成した。

現在は、インタビューを文字起こしし、テキストデータの分析を行っている最中であり、

今後は国際比較プロジェクトのなかでさらにデータを詳細に分析していく予定である。

4. 研究成果

(1) 国勢調査小地域統計 2005-2010 のデータをもとに大阪のセグリゲーション指標を計算し、二時点間の比較分析を行なった。

表1 大阪のセグリゲーション指標の変化

セグリゲーション指標			
	2005	2010	2005-2010
専門管理/ 労働力人口	0.155	0.168	0.013
事務販売/ 労働力人口	0.097	0.084	-0.013
生産労務/ 労働力人口	0.162	0.176	0.014
失業/ 労働力人口	0.160	0.151	-0.009

非類似性指標			
	2005	2010	2005-2010
事務販売/ 専門管理	0.105	0.116	0.011
生産労務/ 専門管理	0.238	0.267	0.029
失業/ 専門管理	0.241	0.251	0.010

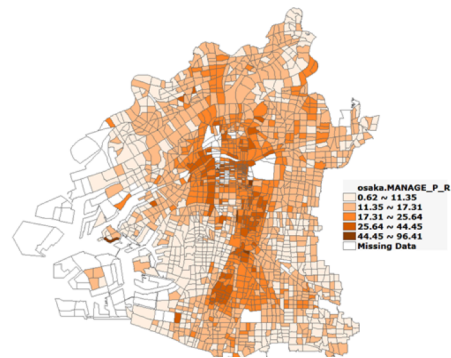


図2 大阪の社会地図 1

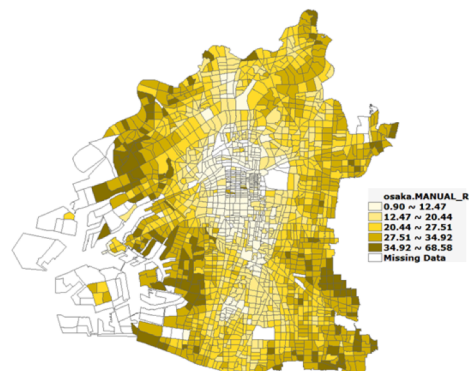


図3 大阪の社会地図2

(2)大阪の富裕（風致）地区4地区を対象に観察調査、住民からの聞き取り調査を行ない、各地区の特徴を分析した。

紐帯)すべてにおいて比較可能であることを確認し、データ分析を行ない、現在も分析途中である。研究期間終了後も継続して分析を行ない、成果を発表する予定である。

(6)課題としては、福祉レジームによる都市政策の相違といった観点からは、調査地域の限定のためかなり不十分となったことが挙げられる。しかし共同研究者とともに、新たに社会的紐帯を基礎としたレジーム比較という分析枠組を洗練させることができたことは、今後の研究を進めるうえで重要な成果であった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

(1)Eiji Kawano "Perceptions of Poverty and Neighborhood Effects in Osaka" *UrbanScope* 査読無 Vol.7 2016 pp.1-15 (電子版)

(2)Takahiro Tabuchi, Eiji Kawano et.al. "Determinants of participation in prostate cancer screening: A simple analytical framework to account for healthy-user bias" *Cancer Science* 2015 (電子版) 査読有

(3)Takahiro Tabuchi, Eiji Kawano et.al. "Individualized and institutionalized residential place-based discrimination and self-rated health: a cross-sectional study of the working-age general population in Osaka city, Japan" *BMC Public Health* 2015 14(1) p.449 査読有 . DOI: 10.1186/1471-2458-14-449

[学会発表] (計9件)

(1)川野英二「パリの都市社会政策とジェントリフィケーション」平成27年12月4日 研究集会 パリで何がおこったのかー11.13 同時テロを考える 都市が壊れるとき part3 大阪府立大学 (大阪府、堺市)

(2) 川野英二「大阪のジェントリフィケーションと近隣効果」平成27年11月17日 釜山大学校・大阪市立大学第一回共同研究会 (韓国、釜山市)

(3)川野英二「大阪のジェントリフィケーションーセグリゲーション分析から」平成27年6月13日 シンポジウム続・都市が壊れるときージェントリフィケーションと現代都市 大阪市立大学文化交流センター (大阪市)

(4) 川野英二「日仏大都市における社会空間的降格ー日仏比較のために」平成27年3月5日 現代フランス語圏研究会 大阪市立大学文化交流センター (大阪市)

(5)川野英二「戦前の大阪市調査から戦後のスラム調査における調査方法」平成27年4月25日 第2回日米社会学史茶話会 成城大学 (東京都、世田谷区)

(6) Eiji Kawano "L'effet de quartier des liens sociaux à Osaka" (大阪における社会紐帯の地

区効果) 平成27年3月26日 フランス国立社会科学研究院・M アルヴァクスセンターセミナー (フランス、パリ市)

(7)Eiji Kawano "L'effet de la disqualification urbaine et de la ségrégation spatiale à Osaka" (大阪における都市降格と空間的セグリゲーションの効果) 平成27年3月25日 国際研究集会 "Disqualification socio-spatiale dans les villes françaises et japonaises"「日仏都市における社会空間的降格：歴史学と社会学の視点の交差」 (フランス、パリ市)

(8) 川野英二・田中宏明他5名「失業および不完全雇用が精神的健康に与える影響」平成25年11月3日 関西心理学会第125回大会発表論文集 70頁 和歌山大学 (和歌山県、和歌山市)

(9)Eiji Kawano "La comparaison internationale sur la ségrégation urbaine et la perception de la pauvreté" (都市セグリゲーションと貧困観に関する国際比較) 平成25年6月13日 L'école thématique: La comparaison, pour quoi faire? (テーマスクール「比較とは何のためか?」(フランス、ビアリッツ市)

[図書] (計1件)

(1)セルジュ・ポーガム著 川野英二・中條健志訳『貧困の基本形態ー社会的紐帯の社会学』2016年3月 新泉社 409頁 全10章中、序章・第2章・第4章～終章、補論、日本語版に寄せて訳出および訳者解題

6. 研究組織

(1)研究代表者

川野英二 (Kawano Eiji)

大阪市立大学・大学院文学研究科・准教授
研究者番号：20335334

(2)研究分担者

笹島秀晃 (Sasajima Hideaki)

大阪市立大学・大学院文学研究科・講師
研究者番号：30614656

赤枝尚樹 (Akaeda Naoki)

関西大学・社会学部・助教
研究者番号：50645546